

2017年度第3回京都競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 比良山特別

比良山（ひらさん）は、滋賀県の琵琶湖西岸に連なる比良山地の高峰群。蓬莱山・武奈ヶ岳・打見山などが並んでいる。近江八景の1つ「比良の暮雪」に数えられた景勝地。

○ 橘ステークス

橘（たちばな）は、ミカン科の常緑小高木。日本原産唯一の柑橘類とされ、四国・九州・沖縄などに自生する。初夏に芳香のある白色の五弁花を咲かせる。京都御所紫宸殿（きょうとごしよししんでん）の「右近の橘」が有名。花言葉は「追憶」「永遠」。

○ 彦根ステークス

彦根（ひこね）は、滋賀県の北東部に位置する市。昭和12年市制施行。江戸時代に井伊氏が彦根城を築城し、その後城下町として栄えた。現存する彦根城の天守閣は、国宝に指定されている。

<第2日>

○ あずさ賞

あずさは、カバノキ科の落葉高木。深山に自生し、高さ20mにも達する。堅く弾力があるこの木で作られた弓は梓弓と呼ばれ、神事などに用いられる。

○ 桃山ステークス

桃山（ももやま）は、宇治川の北岸に位置する京都市伏見区の地名。江戸時代に、かつて豊臣秀吉が築いた伏見城が取り壊され、その跡地に桃の木が植えられたことに由来すると言われている。

○ 読売マイラーズカップ（GⅡ）

本競走は、マイル路線の拡充を目的として昭和45年に創設された重賞競走。『安田記念』、『ヴィクトリアマイル』の前哨戦として位置付けられ、春の短距離路線を歩む馬にとって重要な競走となっている。幾度かの変更を経て、平成24年より阪神競馬場から京都競馬場に移設され現在に至る。なお、第1着馬には同年の安田記念への優先出走権が与えられる。

読売新聞社は、東京・大阪・福岡に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第3日>

○ あやめ賞

あやめは、アヤメ科アヤメ属の多年草。日当たりのよい乾燥した草地に自生する。初夏、花茎の先に黄色い筋のある紫または白色の花を咲かせる。アヤメ属には、カキツバタ、シヤガなども含まれる。花言葉は「よい便り」「吉報」。

○ 烏丸ステークス

烏丸（からすま）は、「烏丸小路」の略。東洞院大路と西洞院大路の間にあり、現在の烏丸通りとほぼ同じものを指す。烏丸通りは、京都市の市街地中央を南北に通じる主要道路で、通りに沿って東本願寺・京都御所・六角堂・護王神社などの歴史的建造物がある。

○ 天王山ステークス

天王山（てんのうざん）は、京都府と大阪府との境にある山。古来より戦略上の要地として知られ、争奪の舞台となった。天正10年(1582)に羽柴秀吉が明智光秀を破った山崎の戦いがある。この故事から、勝負を決する大一番のことを指す比喩としても使われている。

<第4日>

○ 鷹ヶ峰特別

鷹ヶ峰（たかがみね）は、京都市北区の地名。江戸時代初期、本阿弥光悦が移り住んだことから、様々な芸術家が集まるようになり、芸術文化の一大拠点となった。

○ 糺の森特別

糺の森（ただすのもり）は、下鴨神社の境内に広がる森。『源氏物語』や『枕草子』など、多くの物語や詩歌に登場する名所。ケヤキ・ムク・エノキなど、多くの樹木が自生している。

○ 端午ステークス

端午（たんご）は、五節句のひとつ。「端」は初めの意味、「午」は「五」に通じ、「5月初めの5日」という意味。江戸時代以後、男子の節句とされ、鎧や兜を飾り、こいのぼりを立て、成長や立身出世を願った。現在は、国民の祝日「こどもの日」となっている。

○ 天皇賞（春）（G I）

本競走は、明治 38 年 5 月 6 日に横浜の日本レスクラブが、明治天皇から『菊花御紋付銀製花盛器』を下賜され創設した『エンペラーズカップ』を前身とする競走。39 年には東京競馬倶楽部にも御賞典が下賜され、その後、阪神・小倉・福島・札幌・函館の計 7 つの競馬倶楽部で『帝室御賞典競走』が実施された。当初は、各競馬倶楽部が独自の競走条件で実施していたため、競走名こそ同じものの、レースの性格は統一されたものとは言えなかったが、昭和 12 年に各競馬倶楽部が統合されて日本競馬会が誕生したのを機に、『帝室御賞典競走』は春が阪神、秋が東京と、年 2 回東西で実施されることとなり、戦争で中断される 19 年春まで続いた。戦後の 22 年春に『平和賞』の名で復活。同年秋から現在の『天皇賞』に改称され、春は京都、秋は東京で実施されることとなった。

○ 高瀬川ステークス

高瀬川（たかせがわ）は、京都市中南部にある運河。17 世紀初め角倉了以（すみのくらりょうい）が鴨川沿いに開いた鴨川の分水路で、伏見を経て宇治川に通じる。名は、貨物運送の高瀬舟が上下したことに由来する。森鷗外の『高瀬舟』や、吉川英治の『宮本武蔵』などの中で描かれている。

<第 5 日>

○ 鴨川特別

鴨川（かもがわ）は、京都市街東部を貫流し、桂川に注ぐ川。京都北山の棧敷ヶ岳付近に源を発する。高野川との合流点から上流を賀茂川、下流を鴨川と記し、総称では鴨川を用いる。三条大橋・四条大橋・五条大橋など 20 余の橋が架かり、四条河原は納涼地として有名である。

○ パールステークス

パール（Pearl）は、真珠を意味する英語。色は白・黄・桃・淡青・黒などがあり、装身具として古くから世界各地で用いられた。量産することは長年困難とされていたが、明治時代に、御木本幸吉氏が世界で初めて真珠の養殖に成功した。

○ 京都新聞杯（GⅡ）

本競走は、昭和28年に『京都盃』の名称で創設された重賞競走。42年に菊花賞のトライアルレースに指定され、44年にはそれまでの別定重量（31年・34年・35年はハンデ戦で実施）から定量に移行、46年に名称も『京都新聞杯』と変更された。さらに59年には距離が2200mに延長されるとともにGⅡに格付けされた。平成12年に菊花賞の実施時期が繰り上げられたのに伴い、春季に移設された。この際、競走条件についても2000m・GⅢに変更されたが、13年から再びGⅡとなり、14年には2200mへと変更された。

京都新聞は、京都新聞社より発行されている日刊紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第6日>

○ 矢車賞

矢車（やぐるま）は、矢車草の略。ユキノシタ科の多年草。5枚の小葉が円形に配列された形が特徴。6～7月頃、花茎の上部に小さな花が円錐状に集まって咲く。

○ 上賀茂ステークス

上賀茂（かみがも）は、賀茂川と高野川の合流点から上流部の賀茂川流域一帯。賀茂別雷（かもわけいかづち）神社（上賀茂神社）を中心に社家町が形成されている。同神社では、毎年5月5日に日本最古の競馬と言われている「賀茂競馬（かもくらべうま）」が行われている。

○ 鞍馬ステークス

鞍馬（くらま）は、京都市左京区にある地名。奈良時代に創建された鞍馬寺は、後の源義経となる牛若丸が厳しい修行を行ったことや、山に住む鞍馬天狗から武芸を習ったという伝説で有名。

<第7日>

○ 蹴上特別

蹴上（けあげ）は、京都市東山の一地区。傾斜に線路を引き、動力を用いて船を引っ張り上げたインクライン軌道跡があることで有名。

○ 葵ステークス

葵（あおい）は、アオイ科の植物の総称。また、家紋のひとつで、フタバアオイの葉を図案化したもの。賀茂神社の神紋に由来し、徳川氏の葵巴の紋などが有名。同神社で5月15日に行われる葵祭は、石清水祭、春日祭とともに三勅祭の1つに数えられる。

○ 都大路ステークス

都大路（みやこおおじ）は、京都市内を縦横に走る通りの総称。都の大通り、都の幅広い主要な道路のこと。京都は碁盤の目状に区別された平安京を基に発達した町で、現在でも三条通、四条通といった当時を偲ばせる呼び名の通りが残っている。

<第8日>

○ 白川特別

白川（しらかわ）は、京都市北東部を流れる川。比叡山地に源を発し、祇園付近で鴨川に合流する。また、白川流域一帯の地名。古くは鴨川以東、東山との間の地区を指した。

○ 錦ステークス

錦（にしき）は、京都市中京区にある市場の名称。色鮮やかなアーケードにおおわれた石畳の道が390m続き、京都の旬の食材や京野菜、京漬物などを扱った店が多数軒を連ねている。

○ 栗東ステークス

栗東（りっとう）は、滋賀県南部に位置する市。平成13年市制施行。野洲川南岸の平野と信楽山地北斜面の丘陵地を占める。米や野菜の生産が盛んな一方で、化学・金属・機械工業などの工業地帯としても発展している。

昭和44年には、JRAの競走馬調教施設である栗東トレーニング・センターが開設された。

<第9日>

○ メルボルントロフィー

メルボルンは、オーストラリア第2の都市。ヴィクトリア州の州都でもある。フレミントン競馬場で毎年11月に行われる『メルボルンカップ』当日は、同州の休日に指定され、オーストラリア最大級のイベントとして大きな注目を集める。

○ オーストラリアターフクラブ賞シドニートロフィー

オーストラリアターフクラブは、平成23年2月にシドニー地区の2つの競馬クラブを統合して設立された団体。所有競馬場として、ロイヤルランドウィック競馬場・ローズヒルガーデン競馬場・ウォリックファーム競馬場・カンタベリーパーク競馬場が有名。

シドニーは、オーストラリア第1の都市。ニューサウスウェールズ州の州都でもある。ハーバー・ブリッジやシドニー・オペラハウスなどが観光地として世界的に有名。

○ 平安ステークス（GⅢ）

本競走は、平成6年に創設された重賞競走。25年に距離が1800mから1900mに変更され、時期も1月から5月に移設して実施されている。

平安（へいあん）は、平安京の略称。平安京は、延暦13年（794）に長岡京より遷都された都で、大きさは東西4.5km、南北5.2km。平安遷都1100年を記念して明治28年に建立された平安神宮は、大極殿と応天門を模造し、平安京大内裏の朝堂院を3分の2に縮小し復元している。祭神は桓武天皇で、昭和15年に孝明天皇が併せ祀られた。秋には京都三大祭の1つである「時代祭」が行われる。

○ レーシングオーストラリア賞オーストラリアトロフィー

レーシングオーストラリアは、平成27年4月、オーストラリアレーシングボード・レーシングインフォメーションサービスオーストラリア・オーストラリアスタッドブックが合併した団体。競馬番組の認可、調教師と騎手の免許交付、血統登録などの業務を行っている。

オーストラリアは、オセアニアのオーストラリア大陸を占める連邦制の国。首都はキャンベラ。

<第10日>

○ 御室特別

御室（おむろ）は、京都市右京区東部の地名。衣笠から御室に続く一帯には金閣寺・竜安寺・等持院・仁和寺など由緒ある寺院が多く、観光客で賑わう。南部に位置する双ヶ岡の西麓は、吉田兼好が庵を結んで『徒然草』を書いたことで知られる。

○ 鳳雛ステークス

鳳雛（ほうすう）は、鳳凰の雛のこと。また、将来が期待される優れた才分を持つ人物の雅称。中国の『三国志』で、軍師として有名な龐統は「鳳雛」と称され、周囲から将来を囑望されていたといわれている。

○ 下鴨ステークス

下鴨（しもがも）は、京都市左京区の地名で、賀茂川と高野川にはさまれた地域。下鴨神社があることで有名。同神社は、賀茂御祖（かもみおや）神社の通称。祭神は玉依姫命（たまよりひめのみこと）と賀茂建角身命（かもたけつのみのみこと）。

<第11日>

○ 京都ハイジャンプ（J・GⅡ）

本競走は、平成11年に創設された障害重賞競走。高さ80cm、幅約16mのバンケット障害を使用し、遠近感の乏しい競走馬のみならず、騎手にとっても技量を問われる難度の高い競走となっている。

○ 御池特別

御池（おいけ）は、京都市の中央を東西に通じる幹線道路の名称。名は、二条城の南にある神泉苑の池の前を通ることによって由来すると言われている。沿道には神泉苑のほか、本能寺や京都市役所などがあり、日本三大祭のひとつである祇園祭では、山鉾（やまぼこ）巡行のコースとなる。

○ 白百合ステークス

白百合（しらゆり）は、ユリ科の一種で花の白いユリのこと。5～8月頃に花を咲かせ、主に観賞用として栽培される。花言葉は「純潔」「無垢」。

○ 朱雀ステークス

朱雀（すざく）は、中国の伝説上の神獣で、四神のひとつ。南方を守護する聖なる鳥とされる。中国唐の時代の条坊制を用いた都城でのメインストリートを朱雀大路と呼ぶ。日本でも、平安京の大内裏の南門中央部に位置する朱雀門から、南端の羅城門までの通りを朱雀大路と呼ぶ。

<第12日>

○ 東大路ステークス

東大路（ひがしおおじ）は、京都市の東部を南北に走る大通りのひとつ。高野から東福寺付近まで通じている。沿道には京都大学のキャンパスのほか、知恩院や八坂神社など観光客で賑わう神社仏閣も多い。

○ 安土城ステークス

安土城（あづちじょう）は、滋賀県近江八幡市にあった城。現在は城跡全体が特別史跡に指定されている。天正7年（1579）に織田信長が天下統一の拠点として築城した。信長は、その3年後に京都の本能寺で明智光秀に襲われ、安土城はそれに続く山崎の戦いの余波で焼失した。

○ 白藤賞

白藤（しらふじ）は、マメ科フジ属の一種で花の白いヤマフジのこと。4～5月頃に花を咲かせ、主に観賞用として栽培される。花言葉は「決して離れない」「歓迎」。

○ 與杼特別

與杼（よど）は、京都競馬場のある京都市伏見区「淀」の古称。同地には、鉄器の製造や稲作、機織りを伝えた秦一族が住んでいたことから、横糸を通す織物の道具である「杼（ひ）」にちなんで「與杼」という名が伝えられたとされている。京阪電鉄淀駅近くには與杼神社がある。